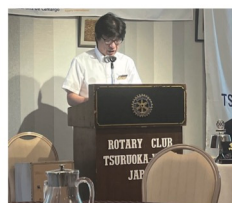




ゲストスピーチ 公益社団法人鶴岡青年会議所 会員拡大委員会様



会長挨拶 会長 鈴木孝純君

昨日の7月13日は鶴岡市内のお盆にあたり、私も職業柄、市内にある十数件の檀家さんの棚経を行いました。私の所の三川町は8月のお盆ですが、何故、お盆は7月と8月にあるのでしょうか。その理由は、明治5年(1872年)12月より太陽暦(12月3日を明治6年1月1日とする)を採用したことにあります。いわゆる旧暦(太陰暦)から新暦(太陽暦)への変更です。お盆は古来より旧暦の7月15日(今年の新暦では9月上旬にあたる)を中心に行われており、新暦でも7月15日を採用して実施されていますが、農村部ではちょうど農繁期の忙しい時期と重なるため、1か月遅らせて8月に「月遅れ盆」を行うようになりました。

お盆は、正式には「盂蘭盆会(うらぼんえ)」といい、お釈迦様の高弟・目連尊者の物語に由来します。目連は地獄に堕ちた母親を救い出すためにお釈迦様に相談し、その教えに従って、夏にお供え物を用意し、大勢の僧侶と経を唱えて供養したところ、母を地獄から救い出すことが出来たのです。この話から、祖先の霊を迎えて供養し、その功德によって苦しみの世界から救い出し、浄土に送りかえす盂蘭盆会の行事が生まれたと言われていました。そして、日本の「先祖の霊が帰る」という古くからの民間信仰が結びつき、現在のお盆の形が生まれました。

6月29日(日)、小学生がさまざまな仕事を通じて地域を知り、庄内の未来を描いてほしいという趣旨のもとで開催された「まちなかおしごと体験」においては、事前準備や当日対応の企画担当

の方々は勿論のこと、当日お手伝い頂いた皆様、大変ご苦勞様でした。「大工さん」「スタイリスト」「フォトグラファー」「ユーチューバー」「パティシエ」の5つの中から希望する職種を事前にも選んでもらう方式で、午前と午後合わせて約140名と大勢の小学生が参加し、成功裡に終えることが出来たと思います。是非とも来年以降も継続して頂ければと思っています。

さて、ドイツでは10歳で将来を選択しなければなりません。ドイツの小学校(グルンドシュレー)は1~4年生までの4年間で、その卒業時点の10歳で、将来大学へ進学する子は「ギムナジウム」、専門学校や職業学校で学ぶ子は「リアルシュレー」、職人を目指して就業に必要な知識を学ぶ子は「ハウプトシュレー」の進路に分かれます。この選択は、保護者や教師がその子の学力や才能や資質をシビアに見て、それに沿った形で将来を決定づけているのです。ドイツでは10歳の選択について「早い段階から将来に向けて準備ができる利点がある」という意見が大勢を占めており、その背景には職人の「マイスター制度」に対する高い評価が受け継がれているのです。しかし、最近、「この年齢での選択は早すぎるのでは」との意見があることも確かです。

このようなドイツの教育制度に対して、日本の学校では子どもたちの成長に合わせて「興味や適性を引き出す」教育や「努力を重視する」教育を行っており、職業の選択は20歳前後がほとんどかと思っています。しかし、何はともあれ、私たち大人が、子どもたちの興味や関心のある分野に「体験」を通して手を差し伸べてやることは、ドイツとは異なった確固たる職業観を育てるために非常に意義あることだと思います。



幹事報告

小野寺佳克君

- ガバナー公式訪問例会
8/6 17:30 東京第一ホテル鶴岡